令和6年度

助任小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇主体的な学びにつながる，単元構想や授業の導入・展開の工夫

〇伝え合い，学びを深めることができる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長(総括)	井上　圭三	教諭(1学年)喜多　ますみ・芝　三知世
		教頭(総括補佐)	藤長　あかね	教諭(2学年)山本千寿子
学力向上担当		教頭(総括補佐)	田中　將太	教諭(3学年)近藤　綾香
		教諭(教務主任)	安倍　崇志	教諭(4学年)行本　将典
教諭　行本　将典		教諭(研修主任)	後藤　和哉	教諭(5学年)後藤　和哉
		教諭(国語科主任)	藤本　奈津美	教諭(6学年)武知　由花

校長

井上　圭三 印

【各校の取組状況の把握について】

学期に1回程度実施予定の学力向上検討委員会と各学年の授業研究会を通して，取組状況の把握を行う。

◎次の(１)～(３)をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

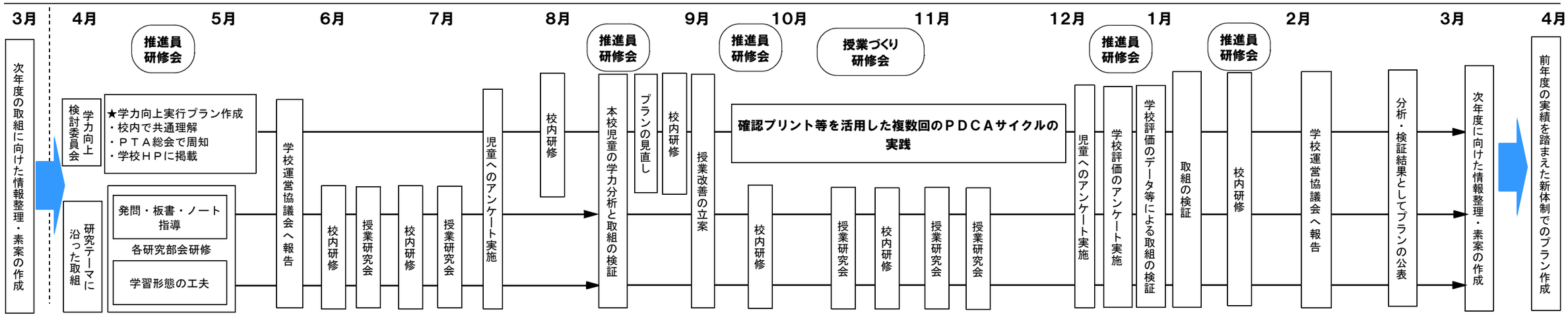
(１)知識・技能の習得

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇学習について，基礎的基本的事項についての力が身に付き，学力的に高い傾向の児童が多い。 ●学力の二極化傾向が見られ，計算や漢字などの基礎的基本的事項が十分に身に付いていない児童が一定数いる。	・学びを深める場面で活用できる知識・技能を十分に身に付けている。	・授業展開を学校全体で共有し，子どもが安心して学習に取り組める環境を整える。 ・ICT機器を活用し，学校や家庭における学習習慣の定着を図る。そのために，ICT機器の活用方法について校内で共有する。			

(２)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇目的に応じて自分の考えを持ち，表現することのできる児童が多い。 ●自他の考えを比べて，自分の考えを広げたり深めたりすることのできる児童が少ない。	・根拠を明らかにしながら自分の考えを発言したり，友達の考えと自分の考えを比べながら聞いたりしながら，自他の考えを伝え合うことができる。	・ペア，グループ及び全体といった学習形態を工夫して，自分の考えを説明したり友達の意見を聞いたりすることのできる場と時間を保障する。			

(３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇多くの児童が，意欲的に学習に取り組んだり，課題を最後までやり遂げたりすることができる。 ●学習に対して参加しづらい様子や自信のない様子が一部児童に見られる。	・自分で課題を見つけ，楽しみながら学習に取り組むことができる。 ・既習事項を活用したり，新しい方法を見出したりしながら，意欲的に問題解決ができる。 ・家庭学習の手引きを利用し，課題意識をもって家庭学習に取り組む。	・課題を明確にもてる授業構成を考え，ICT機器を活用して多様な学び方を展開する。 ・児童の疑問を大切にしながらめあてを設定したり，ふり返りで個々の成長に気付かせたりする。 ・家庭学習の手引きを周知し，子どもの学習習慣を確立させる。			

令和6年度　学力向上ロードマップ